

新規採用職員 座談会 (R2年 Vol.2)

～ 労働基準監督官 編 ～

兵庫労働局では、令和2年度の新規採用職員を対象とした座談会を実施しています。

今回は、令和2年4月1日採用の労働基準監督官6名に集まってもらいました。コロナ禍の中、どのような新生活を送っているのでしょうか。

Q 兵庫労働局に入省して2か月ほどですが、どのような仕事をしていますか？

原田：入省してすぐにコロナ禍に見舞われてしまい、在宅勤務を余儀なくされました。

みんな、在宅勤務中の課題は、けっこう大変だったよね？

北爪：会社への指導文書の書き方や主要法条文、重要な行政通達などのインプットが大変だったよね。

藤井：“労働基準監督署への届出書類について会社の担当者に説明する”という設定でパワポ資料を作ってそれを発表するのが大変だったなあ。理解していないと話せないからね。大変だったけど、実務に活かせるのでためになったよ。

井上：先週、建設現場に連れて行ってもらったよ。上司が以前に監督した現場が墜落による労災事故の危険性が高い現場だったので、少し期間を開けてから、指導後の状況確認をしに行くというのに同行させてもらったんだけど、繰り返して同じ違反があったら、司法事件にするかもしれない、という状況だったので緊張感があったよ。

Q そもそも、労働基準監督官を選んだ決め手は何ですか？

金井：大学生のときにコンビニでアルバイトをしていた時に、店長や副店長が、つらそうに残業をしていたのを見て、このような労働者が少しでも笑顔で働けるような

職場づくりのサポートをしたい、と思ったのがきっかけです。みんなはどう？

井上：私は、労働基準監督官の業務説明会で、監督官は様々な工場や現場に行き、いろいろな仕事を見たり知ったりできるということを聞いて、興味を持ったよ。

北爪：民間企業で働いていたのだけれど、就職先がデスクワークではなく現場メインの仕事で、労災事故について見聞きする機会がそれなりにあったんだよ。そういう災害を減らしたいという思いと、自分が理系なので、理系の専門性を活かした行政職員としての職務ができる監督官に魅力を感じたよ。

沼田：私はじっとしていることが苦手なので、公務員の中でも監督などで動くことが多く、人と関わる機会が多い労働基準監督官が魅力的に見えたのがきっかけだよ。しかも、兵庫労働局では、説明会の時に、若手職員が生き生きとお話しているのを聞いて、地元は兵庫県ではないけれど、ここでなら自分の力を伸ばせそうだと感じて兵庫労働局を選んだよ。



原田：ある労働基準監督署を職場見学させてもらったことがあって、そこで若手監督官の生の声を聴かせてもらったことが決め手かな。

藤井：もともと、人の役に立てるような仕事をしたい、と漠然と考えていたんだけど、大学時代のアルバイトで給料の未払いをされたことがあって、これがきっかけで労働基準監督官を第一志望にしたよ。



Q 現在の職場環境について聞かせてください。

原田：コロナのせいで中央研修が中止になってしまったので、一期上の先輩が、私のためにわざわざ労働基準法の解釈の重要なところをペーパーにまとめて、時間をとって研修をしてくれました。すごくないですか？

沼田：うちの署の方は、私がわから

ないことがあると、職員総出で一緒に調べてくれるし、むしろ「自分も知らなかったよ。気づかせてくれて、本当にありがたいと思うよ。」

藤井：パンフレットとか説明会とかで、「職員はみんな優しい」っていういろいろ聞いていて、半信半疑だったけど、本当に優しい人ばかりで驚いたよ。職場でのストレスは一切ないね。

Q では、労働基準監督官のネガティブポイントはありますか？あるいは、入省前とのギャップとか。

井上：労働基準監督官は法違反があれば指導することができるけれど、民事的なことに対処することができず、もやもやすることがあって、それがつらいところだと思います。

藤井：先輩・上司の方々が、書類作成に追われている印象があるかな。労働基準監督官だけではないかもしれないけど、作成しなければならぬ書類が多くて、しかも内容が厳格だと思う。

金井：ギャップということであれば、ひとつひとつの業務の責任の重さがアルバイトとは比較にならないくらい重くて、プレッシャーを感じているよ。

(ここで！急遽、総務部長が視察に来られました！)

一同：お疲れ様です！

総務部長からのQ
労働基準監督官になってよかった！と思った出来事がありますか？

北爪：家族から相談されるということがありました。それと、監督官は外出することが多いので、内部の職員の話聞くだけ、ということがなく、いろいろな業種の人と

触れ合うことが多く、それがよかったと思います。

沼田：様々な会社に行くことや、その会社の社長や会長のお話を聞くことができるのは、とても貴重な体験だと思います。このようなことができる公務員はあまりないのではないかとすると、監督官になって本当によかったと思います。

藤井：私も、ちょうど、コロナの影響で友人から休業手当の相談があって、それに答えることができたとき、監督官になってよかったと思いました。困っている人の相談を解決に導く、というのはとてもやりがいがある仕事だと思います。

井上：電話相談で、法制度について回答し相談者の方に納得していたとき、感謝されたことです。それと、たまたまですが、大学の時に参加した説明会で説明してくれた担当者が今の上司になっていて、ちょっと感動しています(笑)。

原田：生きていく上で、ほとんどの人が「働く」ということを経験するわけですが、そういう点で多くの人のためになる仕事だと感じ、監督官になってよかったと思います。
金井：世の中の労働環境がこうなっているのか、ということがわかるようになってきたのも、監督官としての醍醐味だと思います。



Q では、最後に。受験生に対してメッセージをお願いします。

原田：試験が延期になって、自分の現在位置が分からない不安がある

と思いますが、自分の目指すものに向かい精一杯頑張ってください。

金井：コロナで先がどうなるか全く読めない状況で、精神的にはきつい状態が続いているかと思いますが、就職活動も長期化すると思います。ただ、これを乗り越えたら自信につながります。心が折れたら終わりですので、なんとか頑張ってほしいと思います。

藤井：労働基準監督官になりたい、という意志が強ければ、試験は乗り越えられると思います。労働問題の解決に貢献したい、という意志がある方なら、きっとやりがいを感じられる素敵な職場になると思います。頑張ってください。

井上：試験勉強をやめたくなくなるときもあると思いますが、息抜きしながらでもいいので、最後まで頑張ってください。

沼田：モチベーションが下がる状況ですが、ここで踏ん張って最後まで粘ることができるこそ労働基準監督官にふさわしいと思うので、あきらめず頑張ってください。

北爪：労働基準監督官は文系も理系も同じ仕事をします。また、私のように、民間企業経験後、試験を受けて監督官に転職する人もたくさんいます。「理系だから」とか「既卒だから」ということで躊躇せず、興味を持たれたのであれば、ぜひ監督官を目指してください！

一同：来年、一緒に働けることを楽しみにしています！

本日の参加者

神戸西労働基準監督署：原田
姫路労働基準監督署：北爪
伊丹労働基準監督署：沼田
加古川労働基準監督署：井上
西脇労働基準監督署：藤井
淡路労働基準監督署：金井

(ゲスト：倉永総務部長)